

令和八年麻生消防出初式

麻生消防団だより

《麻生消防出初式を向かえて》
令和8年1月10日、土曜日。



この日の麻生水処理センターは、例年になく厳しい風に包まれていました。

時折吹く突風が、制服の隙間から容赦なく体温を奪っていきます。

しかし、その寒風さえも熱気へと変える凜とした空気が、会場には満ちていました。

令和8年、麻生地区消防出初式。麻生東分団細山班の車両も、この日のために磨き上げられ、冬の澄んだ青空の下で輝いていました。

式典中、ふと客席に目を向けると、寒さの中で白い息を吐きながら、じつとこちらを見つめる子どもたちの姿がありました。

「カッコいい」そんな小さなつぶやきが聞こえた気がしました。

フィナーレの一斉放水。

号令とともに、幾筋もの水柱が空高く舞い上がりました。

強烈な北風に煽られ、水しぶきは激しく形を変えながらも、力強く天を目指します。

そのしぶきが太陽の光を浴びて、一瞬、鮮やかな虹を描きました。

全身が水浸しになりましたが、互いに交わす表情は晴れやかでした。

「お疲れ様」今年も頼むぞ」

その短い言葉のやり取りの中に、世代を超えて受け継がれてきた「地域の絆」があります。風の強い一日でしたが、心には確かな温かい灯がともった一日でした。

この灯を絶やすことなく、今年も一年、麻生区の安全・安心のために、細山班の一員として、走り抜いてまいります。

どうぞよろしく願います。

《麻生消防出初式を終えて》

晴天に恵まれた中、令和8年麻生消防出初式が盛大に開催されました。当日は気温が低く、強風が吹きつける厳しい寒さの中での式典となりました。

しかし、団員一同、気を引き締めて臨みました。特に一斉放水では、強風の影響で放水の方向調整に苦労しましたが、互いに声を掛け合い、無事にやり遂げることができました。今後地域

の安全・安心を守るため、団員一丸

となって

活動して

まいります。

第40号
麻生消防団
発行日
令和8年3月



消防署と連携した所管業務訓練

令和7年9月9日、大規模災害発生時における初動体制の確立と、消防署との連携強化を目的とした所管業務訓練に参加しました。訓練は大規模災害が発生したとの想定のもと、机上訓練を実施しました。今回の訓練の焦点は、災害時の混乱下で、いかに迅速かつ正確に活動できる体制を整えるかという点にありました。具体的には、以下の項目について集中的に取り組みました。



* 消防団指揮本部の開設・運営 *

災害発生直後、団長・副団長を中心とした指揮本部を速やかに立ち上げる手順を確認しました。被害情報の収集・整理から、活動方針の決定までの流れをシミュレーションしました。

* 無線機を使用した指揮命令系統の確認 *

広範囲にわたる活動を支えるため、無線機を用いた正確な情報伝達と指揮命令系統の運用方法を徹底。指揮本部と各分団間の連携の重要性を再認識しました。

* 消防署と連携した部隊運用 *

地域の情報に精通している消防団と、専門的な知識を持つ消防署が、それぞれの役割を理解し、効率的に協力して活動する具体的な手順について、図上での綿密な連携訓練を実施しました。

麻生消防団は、今後も定期的な訓練を通じて、地域の安全・安心を守るための即応体制の強化に努めてまいります。



あさお区民祭り・麻生消防フェア

令和7年10月12日に第43回あさお区民祭り並びに消防フェアが開催されました。区民祭会場ではテント内でガチャガチャによる消防消しゴムや防災グッズの配布、周辺にて団員募集、モバイルバッテリーによる火災の注意喚起のチラシを配布しました。

消防署内で行われた消防フェアでは、はしご車のバスケット乗車体験、水消火器体験、地震起震車体験、ちびっこ防火服を着て太助と写真を撮るコーナーなどのブースがあり多くの方が積極的に体験され賑わいました。

来場者からは日々の生活においてモバイルバッテリーによる火災への不安や起震車の感想、どのような消火器を備えたら良いかなどの質問等がありました。

災害時自分と家族を守るのは、普段からできる小さな備えの積み重ねと防災の正しい知識です。今回のイベントが少しでも皆様の防災意識の向上に繋がればと思います。



《備えるフェスタ2025》
麻生区総合防災訓練

令和7年12月6日新百合ヶ丘駅周辺において、備えるフェスタ2025が、開催されました。内容は2本の腕をもった重機「アスタコ」の展示、デモの他、はしご車、起震車、水消火器など体験できるコーナーが多く設けられ、遊びながら防災について学べるゲームコーナーも作られました。どのコーナーも行列ができ、抽選から外れる人も多く出るほど、大盛況でした。

水消火器の担当をしましたが、実際に水消火器を手にとってくれるのは子供たちが多く、他のコーナーと同様、家族一緒に体験できるように、親子での消火競争などの設定をすれば実際に使うであろう人にも体験してもらうことができたと思います。もしものとき機能するには、普段から使い慣れていることが大切であり、消火器に触れる機会を広めることができたコーナーだったと思います。

起震車も揺れを体験しておく、地震の時、落ち着いて行動出来たり、他のコーナー



も、もしもの時の備えに直結するものが多数あったので、次回開催への参加をお勧めします。

向ヶ丘自動車学校で運転訓練

令和7年12月1日、向ヶ丘自動車学校(宮前区菅生)において、令和7年度運転訓練

を実施しました。本訓練は、災害現場へ安全かつ迅速に到着し、組織的な活動を行うために必要な運転技術および安全管理能力の向上を目的として行われました。

訓練は、実際の災害出動を想定し、各班単位での実践的な内容で実施されました。指定された経路を走行し、方向転換や狭い道での車両操作を確認するなど、安全運転の基本動作を再確認しました。あわせて、緊急走行時の交差点進入要領を確認し、交通事故防止を意識した危険予測や声かけの重要性についても共有しました。

また、無線機を使用し、出動時を想定した情報伝達や指揮命令系統の確認を実施しました。無線操作の基本から実際の運用までを確認することで、災害時における円滑な連携体制の構築を図りました。

今回の訓練を通じて、団員一人ひとりが安全意識を高めるとともに、実戦的な対応力の向上を図ることができました。麻生消防団では、今後も継続的な訓練を実施し、地域の安全・安心を守る体制強化に努めてまいります。



快晴の中
文化財消防訓練を行いました



文化財防火デーに伴う消防訓練を令和8年1月26日(月)に白山神社にて行いました。
白山神社は、本殿が平成8年1月25日に川崎市重要歴史記念物に指定登録されている神社であります。こちらの神社の本殿南側の法面において枯草火災が発生し、本殿への延焼危険があるとの想定で「初期消火訓練」、「通報訓練」、「避難訓練」を実施し、消火困難であるとの避難者の情報から消防署、消防団による一斉放水を実施しました。
当日は快晴の中、訓練は実施され、一斉放水時には虹が架かり見ている者を魅了しました。重要文化財をこれからも消防署員、消防団員、地域住民と守っていきたいと心に誓う訓練となりました。

消火栓訓練を実施しました!

令和7年10月18日、宮前区犬蔵の消防訓練センター敷地内において、晴天の下、消火栓訓練を行いました。基礎的な部分においては、消火栓マンホールの開け方、水の出し方を確認しました。また、消火栓と本消防団において使用している「小型ポンプ」を直接つないで、水の出る勢いを調整する訓練を行いました。消防団において毎年行っている操法訓練では、防火水槽から小型ポンプで水をくみ上げて放水する方式をとっておりますので、いつもと違う方法を確認することができました。都市部におきましては、防火水槽より消火栓の方が多くなっていると思いますので、毎年消火栓の使用法を確認し、備えておくことが重要であると考えます。しかし、災害時には防火水槽や河川から水をくみ上げることが多くなると思いますので、いつもの訓練も行い、いざという時には臨機応変に対応できるように、各団員が訓練を重ねていくことを願います。また、今後は与えられた訓練だけではなく、「このような場合にはどうすればよいか?」等、団員の疑問に答えられるような訓練、その募集を考えていけたらいいなと思えました。今回の訓練におきましても、「もしマンホールが硬くて開けなかつた場合のマンホール開放器具の使用法」など新しい技を教えてくださいました。今後は小さなことから大きなことまで、訓練をよりよくするよう団員の間で頭を使っていただければと思います。

